

トレーラーハウス「カンバーランドジャパン製ロイヤル」復興住宅に認められる

平成 23 年長野発⇒岩手県住田町で災害ボランティアが活用(3年)⇒その後宮城県で活用(1年)⇒最後に復興住宅となりました。(移動しての活用)

(1) (昭和21年11月26日第三種郵便物認可) 日刊(月曜日休刊)

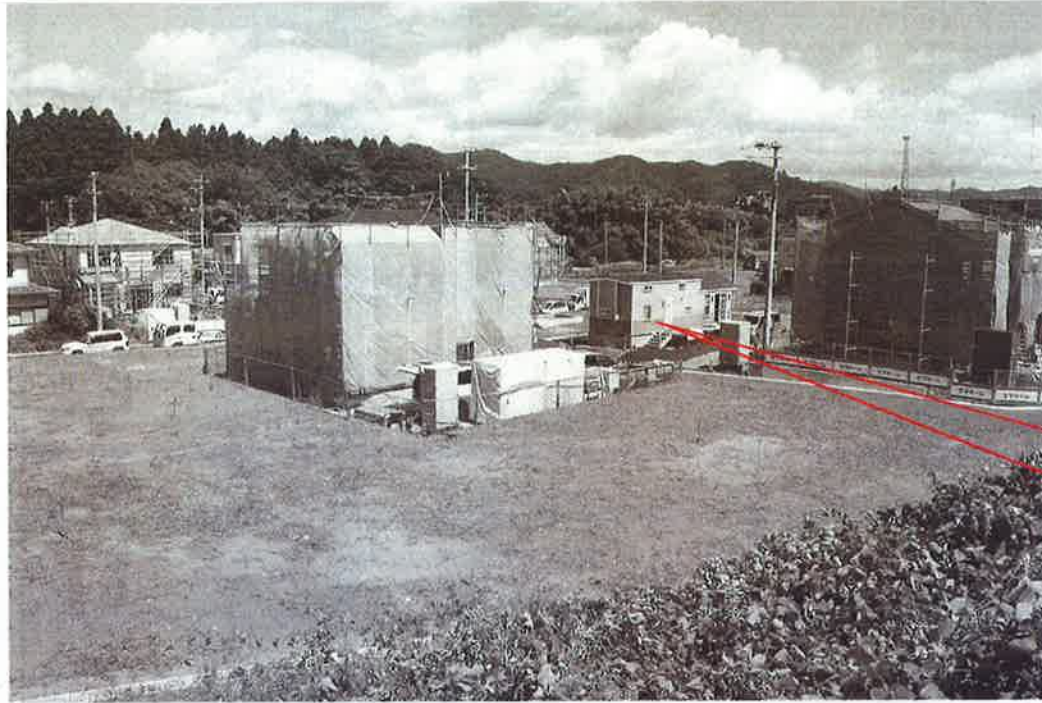


陸

業

報

2015年(平成27年)8月26日



カンバーランドジャパン資料

気仙沼魚市場で24日までに、億円を突破した。不振だった昨年は約2260トにまで縮んだ。年も鮮カツオ日本一が見えてき

沼港 気仙 一本釣りは数量、金額昨年の倍



いる。特に一本釣りが好調で前年同期に比べて数量で2倍、金額で5月が175ト、約0ト、12億8千円、7

その相は油匂がに約よっ 小橋 時

移動できるからこそその活用です。現地で建てるより移動する方がだぜん早く、(周りは建設中)価格も格安！本来の活用方法です。日本では建築確認を取得しなければなりません。弊社の製品は日本の基準に適合しております。

ここから再出発

防集移転団地・災害公営住宅紹介

① 九条防集団地 (23区画)



気仙沼魚市場に25日、気仙沼市の大型サンマ棒受け網船がサンマ55トを水揚げした。前日の初水揚げに続く

2日連続

沼港 気仙 地元

本釣り船も徐々にそろい始めており、水揚げを現

には11隻 24日までに 14億円を

話 続 終 遅 時 本 だ 漁 追 0
し け わ く 期 ン た 労 っ い 万
て け る 期 ン た 労 っ い 万

はじめに

2011年3月11日に発生した東日本大震災後の岩手県住田町の取組みとりわけ、全国に先駆けて建設された木造戸建ての応急仮設住宅およびみなし仮設住宅において行われたコミュニティ活動支援の記録です。

住田町では、未曾有の津波被害を与えた震災直後から、沿岸部の被災者の方々の支援に取り組んで参りました。また、国内外から訪れた多くの支援団体の方々が、住田町を被災地に隣接する内陸の拠点としながら支援活動を行いました。こうした状況で、沿岸部からの避難者を受け入れた、住田町の仮設住宅では、多様な支援活動が行われるとともに、その結果として、住田町の住民と仮設住宅の居住者、さらには支援団体等の方々の間に多様なつながりが生まれ、現在に至っています。こうした人々のつながりは、これからの東北の復興を支えていく大きな原動力になるに違いありません。

本冊子では、住田町を通して支援を行ってきた様々な方々へ感謝の意を込めて、これまでに住田町で行われた支援活動を振り返り、紹介させていただきます。

なお、被災された方々の、仮設住宅での生活は、依然として継続しており、今後も、状況に応じた支援活動が必要な状況にあります。本冊子の編集を通して、支援活動のあり方について振り返るとともに、今後の支援活動に生かして行く事ができれば幸いです。



1 震災直後の住田町の活動

住田町は、3月11日14時54分、東北地方太平洋沖地震の発生に伴い、災害対策本部を設置するとともに、大船渡市および陸前高田市への支援活動を実施しました。まず、1日の夜からは、町の給水車による飲料水供給を始め、3月12日からは、避難所に対する物資の提供や炊き出しを開始するとともに、消防や警察、自衛隊等の、支援団体の受入れを始めました。

3月19日には、生涯スポーツセンターを遺体安置所として提供しました。また、行政機関も大きな被害を受けた陸前高田市や大槌町に対しては、3月26日から、保健師や職員の派遣を行いました。

町内の個人住宅にも、沿岸部から多くの方々が避難を行い、4月22日現在、709名の方々が避難しておりました。そこで町では、被災者相談窓口を開設し、安否および住宅情報の提供を行い、3月31日現在で、347件の相談を受けました。

震災直後の3月13日に建設を決定した木造仮設住宅は、はしめに火石団地（13棟）が4月25日に完成し、続いて5月6日に本町団地（17棟）、5月23日に中上団地（63棟）が完成し、5月2日、火石団地より順次入居が開始されました。

災害対策本部設置

3月11日14時54分
東北地方太平洋沖地震の発生に伴い、
災害対策本部を設置

余震による本庁舎への二次災害が懸念されたことから、本庁舎前駐車場に設置したテント内での災害対策を実施

4月30日
災害対策本部廃止

5月1日
東日本大震災支援室設置
(2014年4月1日 機構改革により
震災復興支援室に改称)



災害対策本部

震災直後の支援活動

3月11日より
町給水車による飲料水供給

3月12日より
町民提供物資（毛布、ミルク、衣類等）、
町調達物資（燃料、日用品等）を避難所に提供

3月12日～16日
消防団員による行方不明者捜索（延べ743名出動）

3月12日～17日
婦人消防協力隊と町職員の炊き出しによる避難所等への食事提供（延べ510名参加）

3月19日～5月17日
生涯スポーツセンターを陸前高田市遺体安置所として開放



職員と婦人消防協力隊の炊出し

支援団体の受入れ

3月12日～6月6日
山形県消防隊38隊 250名
(世田米小学校体育館)
大阪府警、兵庫県警 265名
(社会体育館)
陸上自衛隊第6施設群 180名
(世田米中学校体育館)

3月14日～31日
アメリカ、イギリス消防隊（世田米小学校体育館）

3月29日～7月31日
防災科学技術研究所災害情報支援チーム（保健福祉センター）

3月29日～2014年4月現在継続中
愛知ネット



愛知ネットのトレーラーハウス

沿岸部への職員派遣

陸前高田市への派遣

3月26日～27日
保健師2名/日の派遣

3月29日～4月30日
一般職員3名/日および高校生ボランティア派遣

7月19日～ 一般職員2名派遣
(2014年4月現在派遣継続中)

大槌町への派遣
4月2日～7月28日
窓口業務等
(各4日間、全12回、延べ48名)



消防団員による行方不明者捜索

避難者の受入れ

農林会館内に避難所を開設し、避難者を受入（4月22日現在1名）
町内個人住宅709名

被災者相談窓口を開設し、安否及び住宅情報を提供
(3月31日現在、相談件数347件)

3月20日～31日
陸前高田市内避難所から、入浴施設「遊林ランド」への被災者送迎



物資配布の様子

木造仮設住宅の建設

3月22日
町単独による木造仮設住宅着工

全国初の木造戸建て仮設住宅完成
4月25日 火石団地13戸
5月6日 本町団地17戸
5月23日 中上団地63戸
計93棟に避難者261人が入居



木造戸建仮設住宅（本町団地）

4 仮設団地のあゆみ

仮設住宅が完成すると、2011年5月より順次、各団地への入居が開始されました。

その後、住田町や社会福祉協議会のほか、仮設住宅に隣接する下有住地区公民館、支援団体愛知ネット、邑サポート、などと連携した支援活動が行われるようになります。

一方、仮設住宅でも、夏までに3団地それぞれで自治会が設立され、支援者との連携が図られると同時に、自治会の交流会などが開催され、コ

ミュニティづくりの動きが活発になります。秋以降は、各種支援団体が訪れ、イベントや交流会が開かれていくようになります。

2年目以降は、陸前高田市の七夕まつりの山車を住田町で製作するなど、文化的な活動や交流が盛んになってきました。

現在では、地域の活動に仮設住宅の方々に参加するなど、仮設住宅と地域が一体となった取り組みが行われています。



共同農園



下有住地区の夕涼み会



行燈の絵付け



流しそうめん



トヨタグループボランティア活動



バンド「ザ・シモアリス」の演奏



ひうちなだ 燄難防災会のうどん炊出しと交流会

2011

2012

2013

3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 1月 2月

3月11日 震災
仮設住宅団地建設開始
愛知ネット活動開始
5月～団地入居開始
下有住地区公民館支援開始
邑サポート活動開始
仮設住宅等支援連絡会設置

生活支援相談員配置
下有住地区の夕涼み会
住民交流会
旧下有住小学校開放
共同農園開設
各団地自治会設立
トレーラーハウス設置
プレットストープ贈呈
くろみの会活動開始

下有住収穫祭
クリスマス会
NHK取材企画
「ほっこり鍋とのり巻き」
臨床心理士活動開始
3団地合同会議実施
浜のミサガ実施
アンケート実施
景配布

一周忌法要
火石団地看板設置
燄難防災会来訪
「手打ちうどん交流会」
鍼灸師ボランティア
お花見交流会実施
手作りプランコ作成
掲示板設置・改修
ワインとチーズの支援

住田町夏まつり
動く七夕祭り
ガーデニング支援
トヨタグループ来訪
動くミニ七夕製作
愛知学院大来訪
銀河ネット宿泊
みんなの花壇完成

下有住収穫祭
アリスの不思議な文化祭
信州ラーメン炊出し
クリスマス会
いもバンド来訪
富山県有志
「チューリップ寄付」
歳末たすけあい参加
陸前高田市議会報告会
水しぎ披露

鎮魂と復興の灯り
集会所「崎庵」設置
花見交流会実施
ボランティア送別会
燄難防災会来訪
「手打ちうどん交流会」
フラワーアレンジメント
お茶会実施
陸前高田市市長と語る会

よいとりファーム参加
各団地交流会
とびっこ夏まつり
動く七夕祭り
緑のカーテン実施
下有住地区公民館落成式
七タミ山車製作
ふれあい昼食会実施

手作りピザ交流会
復興モデル住宅見学会
丹波山村ジャガイモ寄付
下有住収穫祭
農業委員会新米配布
敬老会実施
ソウルオブ東北料理教室
蕎麦打ち体験交流会
大助氏来訪



本町団地での交流会



盆踊り



動く七夕の山車おひるめ
(住田町夏まつりにて)



体験農園よいとりファーム



クリスマス会の様子



集会所での活動(手芸サークルくろみの会)



火石団地で看板設置(協力: 仙遊会)



中上団地の住民と支援者の交流会



more trees によるプレットストープ提供



みんなの花壇

6 つながる輪

震災後、住田町には、県内外の行政、企業、大学、さらには国内外のNPO、団体やボランティアなど様々な方々が訪れ、仮設住宅の支援を行い、あるいは住田町を拠点に沿岸部の支援を行って来ました。

その結果、一度訪れたボランティア達が、その友人たちを伴って住田町に帰ってきました。ひとつのNPOが来たことで、協力関係にあるNPOや企業ボランティアが町を訪れました。遠く離れた行政同士で、新しい連携関係が生まれました。

住田町をきっかけに、生まれたつながりを、育てていくことで、私たちは、持続的に、気仙地域の復興を支えていく事ができるのではないのでしょうか。更には、ここで培われた経験や知恵を、それぞれの故郷にも伝え、日本の様々な地域をも耕していく事ができるものと思います。

なお、本稿では紙面の都合上紹介しきれなかった、団体、個人の方々か沢山いらっしゃいますが、この場をお借りして、御礼申し上げます。

カラー凡例

- 仮設住宅
- 行政機関等
- NPO・ボランティア団体等
- 民間企業等
- 大学・教育機関等

